

# 双京

連続講座

# 構想

京都アスニー  
ゴールデン・エイジ・アカデミー

京都は千年以上もの長きにわたり都として栄え、雅な宮中文化が育まれ、今なおさまざまな形で市民生活の中に息づくとともに、東京の皇居以外に唯一現役の御所があります。

こうした日本の歴史と皇室と京都との関わりを踏まえ、双京構想推進検討会議(京都府 京都市 京都商工会議所)では、皇室の弥栄を願う「双京構想※」の実現に取り組んでいます。

本年5月には、お代替わりが行われ、新たな令和の時代が始まりました。この節目の年に京都アスニーとの連携の下、かつて宮中で行われていた「五節句」の行事に迫る連続講座を4回にわたり開催します。

※双京構想とは…日本の大切な皇室の弥栄、そしてわが国の伝統を守り、文化を発展させるため、皇室の方々に京都にもお住まいいただき、政治・経済の首都である「東京」と、歴史・文化の首都である「京都」の双方で、わが国の都としての機能を果たしていくという構想。

令和元年

8月30日(金)

平安時代の三月三日

京都造形芸術大学教授 五島 邦治

9月6日(金)

宮中の五節句と鄙の五節句

元京都市歴史資料館館長 山路 興造

9月13日(金)

重陽の節会 - 菊と後鳥羽上皇 -

有斐斎弘道館代表理事 太田 達

9月20日(金)

平安貴族が楽しんだ五節句

京都ノートルダム女子大学名誉教授 鳥居本 幸代

会場

京都市生涯学習総合センター

京都アスニー

(4階ホール)

3階 第8研修室で同時中継

(中京区丸太町通七本松西入)

時間

各回とも

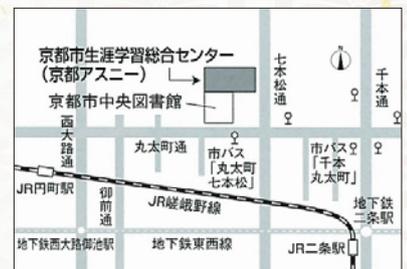
午前10時~12時

(午前9時30分開場)

※午前11時30分から12時までは  
歌唱指導

対象 / どなたでも  
ご参加いただけます

定員 / 600名(先着順)  
事前申込不要  
直接会場へお越しください。  
※アスニー山科でも同時中継  
定員100名(先着順)



会場へは地下鉄・バスなどの公共交通機関が便利です

参加料  
無料

事前申込  
不要

創生都



令和元年

8月30日(金)

平安時代の  
三月三日

京都造形芸術大学教授

五島 邦治

三月三日といえば、現在ではおひな祭りになりますが、平安時代にはありませんでした。もともとまったく別個の「ひいな遊び」と人形(ひとがた)に託した祓えが合体したものとされています。むしろ平安時代には、貴族も庶民も鶏を持ち寄り、戦わせて遊ぶのを楽しみとしました。平安末期に原本が描かれた「年中行事絵巻」という絵画資料を使い、また当時の貴族が記した日記史料を読むことにより、そのようすを再現し、当時の風俗と社会をのぞいてみましょう。

9月6日(金)

宮中の五節句と  
鄙の五節句

元京都市歴史資料館館長

山路 興造

奇数を尊ぶ思想はわが国のものではない。大陸伝来の文化である。一年のうち奇数が重なる月日を節句として祝う文化は、現在でも東アジアの国々で伝承される。しかしわが国では、その祝い方を独自のものに変容させた。宮中での五節句、また民間での五節句。その独自の変化の様子をそれぞれに検証してみたい。

9月13日(金)

重陽の節会  
- 菊と後鳥羽上皇 -有斐斎弘道館代表理事、  
有職菓子御調進所老松主人、工学博士

太田 達

菊は、古来より長寿の花とされてきました。五節句のなかでも時候のよい九月九日(旧暦)は、菊酒をいただくなど、平安貴族の楽しみの節句でありました。

御代がわりの今、菊の御紋を目にすることが多いと思います。この紋章はいつできたのでしょうか。それは菊を好んだ後鳥羽上皇に由来します。後鳥羽上皇と菊について考えてみたいと思います。

9月20日(金)

平安貴族が  
楽しんだ五節句

京都ノートルダム女子大学名誉教授

鳥居本 幸代

奈良時代に中国から伝来したさまざまな行事は、平安時代に入って宮廷の年中行事と定められるようになりました。有力貴族たちは、それらの行事を私邸でも行い、四季の移ろいを楽しむようになったのです。

とくに、五節句には特別な食べ物や飲み物が供され、それを飲食することによって邪気・穢れを祓い、長寿・延命を願いました。さらに、五節句に付随する行事にも触れ、平安貴族のくらしを垣間見ていきます。

(敬称略)

お問合せ

京都市総合企画局総合政策室

TEL (075)222-3375

FAX (075)212-2902

主催：双京構想推進検討会議(京都府 京都市 京都商工会議所)・京都市生涯学習総合センター(京都アスニー)